

社員同士がウェブカメラでいつでも顔を見ながら会話することができる



## 企業理念を実現するため 社員自ら社内改革を実践

### 株式会社 トーケン

#### 「社員が主役の企業」へ 社内に委員会を立ち上げ

建設業を中心に、高齢者の住宅仲介「ウチシルベ」、「グリーンビズ緑化事業」の“多柱経営”を展開するトーケン。ここ10年で、売上高は2.5倍、100億円を超えるまでに成長した。岡本広志総務部長は「仕事量が増える中、『お客様のために責任を持って仕事をやる』という社員のやる気を尊重しながら、業務効率化を図っていく必要があった」と話す。

働き方改革については、単に残業時間削減や生産性向上のためというだけでなく、同社の企業理念の一つである「社員が主役の企業をめざす」の実現のため、社員一人ひとりが主体的に改革に取り組むことが最も重要として進めている。

そこで、2017年9月に立ち上げたのが「意識改革」「業務改革」など5つの委員会だ。いずれも社員からのボトムアップで社内改革を実現する



変化を恐れず未来に向かって改革を進める根上社長（左）と岡本総務部長

ための試み。例えば意識改革委員会では、企業理念の「社員が主役の企業をめざす」ことを再確認することから始めた。同社は、社員持株会により主任以上の社員の多くが株主となっており、一人ひとりが“自分の会社”という認識を高め、自覚や使命感を持つことで実現に取り組んだ。

業務改革委員会は、まず業務の現状を洗い出し、問題を把握した。工務部は現場を監督する立場にあり、工期優先となるため休みづらいという環境にあるが、全ての現場の取り組みとして第4土曜を休日にした。さらに、作業効率アップの取り組みも積極的に推進しており、例えば、2018年2月に高精度ライブカメラ5台を導入。離れたところからでも常時、現場の状況が確認できることで、作業効率以外にも安全性や移動時間の削減に貢献している。こうした取り組みにより、社員の健康を守り、ワークライフバランスの実現につなげたい考えだ。

#### 働き方改革は“宝の山” 解決すると大きな財産に

業務の効率化には、円滑なコミュニケーションも欠かせない。そう考えた同社では、全社員のパソコンにウェブカメラを搭載したほか、金沢

や小松など4拠点にテレビ会議システムを導入。これまで各拠点に集まって開催していた会議や朝礼を同時に行うなどにより、移動時間の削減はもとより、社員間の情報共有のスピードアップと意思疎通の活性化につながったという。

また、多様な人材が力を発揮できるようさまざまな工夫も見られる。大手ゼネコンを退職した60歳以上の技術者を「技師長」として採用し、若手社員の育成に力を注いでもらっている。さらに、同社では女性社員11人のうち、6人が管理職として活躍しており、細やかな配慮が業務に好影響をもたらしている。今後は、書類作成を補佐する社員を雇用し、現場監督の負担を少しでも減らしたい考えだ。

根上健正社長は「実は、働き方改革は“宝の山”だ。目の前の問題は難しそうに見えるかもしれないが、それを解決した時、会社に大きな財産がもたらされる。いいと思ったことはすぐにやる姿勢がとても大切だ」と語り、スピード感のある改革を心がけている。

これからも同社では、企業の成長の根幹を成すのは「人」と考え、経営者目線を持った人材の育成に力を注ぐことにより、改革の歯車を回していく。

#### DATA

■所在地/金沢市入江3-25 ■代表者/根上 健正 ■設立/1970年 ■従業員数/70名(男:59名/女:11名)  
■事業内容/建設総合サービス業